

基本的な考え方について

〔これまでの経緯・背景〕

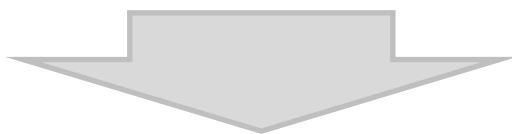
- 教育の「西の総本山」と呼ばれた広島高等師範学校は、東京高等師範学校（明治19年に設置）に続いて、明治35年に設置された。

その後、広島大学の前身である、広島文理科大学は、昭和4年に広島高等師範学校に大学を新設することで開学され、旧理学部1号館は広島文理科大学の本館として建設された。

- 広島市は、広島大学本部跡地について、平成18年に広島地域大学長有志懇談会から提案のあった「ひろしまの『知の拠点』再生プロジェクト（仮称）」を基本に、「知の拠点」の再生に向けて、広島大学とともに、各種都市機能の集積による新たな都心空間の創出に取り組んでいる。

- 旧理学部1号館があるエリアについては、「知の拠点」の核となるゾーン内にある「知の継承エリア」と位置付けられ、旧理学部1号館を被爆建物であることに着目し活用することとされている。

- これらを念頭に、広島市は、旧理学部1号館について、その歴史的な価値を踏まえながら、被爆の実相を確実に伝えるとともに、「知の拠点」にふさわしい建物とするために取り組んできている。



〔基本的な考え方〕

- 旧理学部1号館は、かつての学都広島としての歴史を象徴する建物であり、また、被爆建物であることを踏まえ、「知の拠点」の核となり、新たな時代に向けて知の継承を図るとともに、被爆の実相を後世に伝えることができるよう、保存・活用する。
- 保存・活用に当たっては、広島大学本部跡地全体が「知の拠点」としての機能が高まるような機能の導入を図る。